

○ **佐久間委員長(学識)**

スポーツは「見せる、見れる、やる気になる」が重要。

- ・ スポーツをしている人の姿を見ることで、一般の人がたちがやる気になればよい。(施設のショールーム化)
- ・ 各事業ごとのデータ収集は必要。
- ・ 既存のカヌー事業にプラスして、キャンプの振興・キャンプリーダーの育成が図れないか。
- ・ プロスポーツ支援として選手のセカンドキャリアサポートは重要。
- ・ スイムピア奈良では、障がい者を対象にした事業ができないか。

○ **牧川委員(学識)**

総合型地域スポーツクラブは、地域コミュニティの希薄化が進んでいる現在、重要な役割を担う。

- ・ 総合型地域スポーツクラブと学校教育の連携は重要。
- ・ 総合型地域スポーツクラブは経営的基盤の強固と中心的人材の確保が必要。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの会員に施設の利用料金は応分負担であると意識変革してもらうことが必要。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの必要性を意識することが重要。
- ・ スポーツツーリズムは重要。
- ・ 施設整備についてはPFI方式など民間活力の導入を検討すべき。
- ・ スポーツ情報の発信については、できることから初めていくことが重要。

○ **川崎委員(総合型地域スポーツクラブ理事)**

総合型地域スポーツクラブ間の交流事業の充実を要望。

- ・ 総合型地域スポーツクラブに関して、交流大会等事業の充実を要望。
- ・ 情報ツールを駆使して、各事業の広報に力をいれるべき。情報が必要。
- ・ 県の特性を活かしたスポーツイベントを開催し、地元にお金を落とすべく演出すべき。

○ **福井委員(芝運動公園スポーツクラブ会長)**

奈良県出身のトップアスリートの活躍に期待。

- ・ 2020年東京オリンピック開催にあたり、各方面での協力・支援が必要。
- ・ 奈良県出身のオリンピック選手誕生に期待。
- ・ 国民体育大会での奈良県選手団の活躍に期待。

○ **細川委員(学識)**

新規事業計画の際は、現場の声を収集することが重要。

- ・ スポーツ推進計画に基づいた、魅力あるスポーツ振興事業に期待。
- ・ 新規事業計画の際は、現場の声をしっかりと聞き取ることが重要。

○ **笠次委員(学識)**

スポーツの競技力向上等と医科学の関わりについて、具体的取組が必要。

- ・ スポーツの競技力向上等と医科学の関わりについて、取組事項や組織体制の検討を進めている。

○ **朝原委員(トップアスリート)**

トップアスリート活用事業の継続に期待。総合型地域スポーツクラブとの連携に手応え。

- ・ トップアスリート活用事業について、一般参加者・クラブチームともに好評。
- ・ トップアスリート活用事業について、準備期間・広報が不十分であった。周知の徹底を図れば、全国規模の開催も可能と期待。
- ・ 「リレー」のブランド化を構想。
- ・ 奈良の自然を活用したスポーツイベントを提案。それが奈良県への集客やイベントの全国展開につながると期待。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピック開催にあたり、関西における理想的なスポーツ施設の設立・あり方

○ **根本委員(トップアスリート)**

障がい者のイベント等の参加は、「だれもが」スポーツに親しめる環境の創造につながる。

- ・ 現在の障がい者スポーツ振興事業については、ある程度満足。
- ・ 施設のバリアフリー化は当然であり、既存施設の改修も不可欠。
- ・ 障がい者のイベント等への参加機会の増加は、「だれもが」スポーツに親しめる環境の創造につながり、好循環を生む。
- ・ 専門家と連携しながら、新規事業に果敢に挑戦することが必要。
- ・ 2020年東京パラリンピック開催にあたり、障がい者スポーツの振興に期待。
- ・ 食と関連づけたスポーツイベントを提案。
- ・ 「おらが町のスポーツ」振興の核に総合型地域スポーツクラブを活用し、地元メディアを駆使することが重要。

○ **辰野委員(民間企業代表)**

奈良で「エコツーリズム」の振興を希望。

- ・ エコツーリズムの事業化のサポートを希望。その際、和歌山県橋本市恋野地区での事業、観光庁インバウンドプロモーション事業、鳥取県「SEA TO SUMMIT」事業経験等が生かされると期待。

○ **泉本委員(民間企業代表)**

今後の施設整備にはPFI手法が有効。

- ・ スイムピアの建設は他府県と比較してもかなり低価格であり、今後の施設整備の参考になると推測。
- ・ スイムピアでの自転車郵送受取サービスについて、ジョギング&サイクリングステーションで実施している宅配サービスを参考にしたい。

○ **稗田委員(民間企業代表)**

奈良のスポーツチームは「市民チーム」を志向すべき。

- ・ 新潟や松本のJリーグチームは地域に根付いている。地元の人から募金を募るなどして、地元チームへの愛を育むべき。
- ・ 「奈良クラブ」や「バンビシャス奈良」の広報に奈良県出身有名人の起用を提案。
- ・ マラソンはブームではなくライフスタイルとして定着しつつある。